

## 〔第三〇回大会

### 記念事業を考える準備委員会の原案〕

さきに、柿崎、高山、安原、蓮見の四名で構成されている記念事業を考える準備委員会では、記念事業をつぎのように計画したので、運営委員会に報告し、今後のすすめ方につき検討をお願いしたい。

(1) 第三〇回記念大会は、一九八二年一〇月頃に、東北地区で開催する。大会の共通課題は、「村落の変化と現状」とする。含意としては、「日本資本主義と村落」ということで、いくつかの主要画期についての報告と討論を期待する。このほか例年のように自由発表を公募し、第一日午前はこれにあてる。

(2) 「村落社会研究会三〇年の回顧」についての座談会を、二回開催する。第一回は、できれば今秋の大会の後にでも、東京で開催し、録音をとって原稿化し、後出の年報特集号に掲載する。(場合によつては、研究通信に掲載する)。第二回は、三〇回大会の際に、(大会の前日あるいは第一日の夕方)開催し、この場合にあつては若い研究者を加えた座談会といつた形にする。参加していただきたい方で、このいずれにも出席されぬ場合には、通信への原稿依頼ないしは、対談といった形で補充する。

(3) 年報については、八二年秋に「農村計画」、八三年秋に「村落の変化と現状」を内容とする通常の刊行を行うほかに、八三年六月刊行の予定で、特別号を発行する。この号は、「村落社会研究の課題」というタイトルで、すべて依頼論文により編成する。現在の年報編集委員会とは別に、編集委員会的な機能を作り、内容の構成、執筆者の選定を行い、総会(今秋)の承認をえた上で、明年一一月頃までに原稿を集め、印刷を入れる。なお、上記の回顧の座談会は、編集の上で、この年報に収録する。そのほか、大会の第一回から第三〇回までのプログラムを全部収録する。

(4) 当委員会では、このほか、記念講演会の開催と、研究通信の復

刻についても検討した。記念講演会は、もし開催の希望が強ければ八二年一〇月の大会の前後に、東北で開催するのが適当と思われるが、開催するか否かは、適当な機関で判断されるように考える。また、研究通信の復刻については、費用の点で難点があり、記念事業としてはとりあげないでよいと考える。

(5) 当委員会としては、記念事業については、以上のように計画したので、運営委員会において検討された上、実施する事項となるべく早くに決定されるよう希望する。その上で、今後の実施には、実行委員会を組織し、座談会の企画・準備、年報特別号の編集、開催するのであれば講演会の企画・準備を担当させることが必要であると考える。なお、大会については例年のように宿題委員会・運営委員会が企画をすることが適當であろう。

以上